

## 産業発展論（川 端）演習

1 テーマ 世界と日本を動かす産業の構造とダイナミズムを分析する

2 テキスト 未定。まず日本経済に関する本を材料に現代資本主義論の考え方を学び、それから産業研究の専門書を読みます。参考までに書くと、2010年度は最初に伊藤修『日本の経済』を読み、続いて渡辺利夫編『アジア経済読本(第4版)』を読みました。

3 趣 旨 (1) 企業・業界分析ができるようになろう！ (2) プレゼンテーションとレポート作成ができるようになろう！ (3) 根拠のある自信をもって世界を語れるようになろう！

4 募集人員 4月進級者、編入学生、10月進級者あわせて10名が限度です。

5 参加条件

①無断欠席絶対不可。②ワード、エクセル、パワーポイント、パソコンのemailを使います。ゼミに入ってから練習してもまにあいます。③川端担当年度の「企業論」も受講してください。④当ゼミは経済学ベースですが、経営学と重複する部分も少なくありません。⑤経済数学は必要ありません。⑥本・論文をよく読もうとする意志が必要です。

6 選考方法（4月進級予定者）

第1, 2次募集では、計7名まで無条件で受け入れます。7名を超えたときだけ選抜を行います。第3次募集では、個別に面談を行って受け入れ可否を決めます。

7 運営方針

(1) 当ゼミは定性的分析、ケース・スタディが中心です。ひとつひとつの企業の行動や業界の出来事の意味を探ること、個別のケースと、それをとりまく世界、アジア、日本社会の動きとの関係を考えることが大切です。(2) 当ゼミではミクロ経済学、マルクス経済学、経営学のいずれをベースにしても議論できますが、どれが一つは議論で使えるように基礎をよく身につけてください。(3) 2月に打ち合わせを行い、春休みのレポート課題を出します。(4) ゼミの内容は、以下の3つが中心です。1) テキスト輪読。レポーターが報告し、全員で議論。2) 各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論。3) セミナーや見学旅行の企画や記録作成の会議。(5) 調査記録・研究報告や演習論文をゼミ誌『研究調査シリーズ』に掲載します。学生の研究計画を書籍購入等で支援します。(6) 前任教授時代から40年以

上続くOB・OG会があり、年に1回「現代産業研究会」を行っています（工業経済研究会と合同）。各界で活躍されている卒業生や研究者の講演を聞き、交流できます。（7）様々な企業を年1回以上見学します。2009年度はサッポロビール、新日本製鐵、セレスティカ・ジャパン、エフピコを訪問しました。

## 8 担当教員の主要な研究業績

「東アジアの鉄鋼一貫企業」『ふえらむ』Vol. 15 No. 3、日本鉄鋼協会、2010年3月、『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』ミネルヴァ書房、2005年、（大野健一との共編著）『ベトナムの工業化戦略』日本評論社、2003年、など。主に東アジアの産業について研究しており、日本、韓国、中国、タイ、ベトナムなどで実態調査を行っています。

## 9 指導教員が薦める本 自分が面白いと思った本を読んでもください。

10 「ゼミ見学」の可否 歓迎。金曜日14時40分に第8演習室へ来てください。途中退室・入室も可です。

11 10月進級者に対する特記事項 なし。

## 12 その他

教員のウェブサイトを見て、自分の関心とゼミの内容を比較してみてください。メールによる問い合わせも受け付けます。kawabata@econ.tohoku.ac.jpです。

演習論文で研究したい業種・企業は自由に選べます。昨年度のテーマは、「オンライン証券取引の発展と証券業界」（演習論文優秀賞受賞）、「ファストファッション業界の構造分析」、「医薬品産業における流通構造とその問題点」、「中小企業の産学連携における問題」、「シルク・ドゥ・ソレイユ ―ショービジネスとしてのサーカス―」でした。

就職先実績はメーカー（自動車、重機、鉄鋼、素材、医薬品、化学、エレクトロニクス）、金融・証券、不動産、テレビ局、コンサル、公務員、大学職員など多岐にわたっています。

2010年度第1学期現在のゼミ参加者は14名（4年生×4、3年生×7、院生×2、研究生×1）（男性×11、女性×3）。ゼミ生の懇親会も盛んですが、飲酒を強要することはありません。

揺れ動く世界と日本を、いっしょに見つめましょう。